五島新報

郷土を元気に！　平成20年９月27日㈯　第45号

発行所
㈱五島新報新聞社
〒853-0004　長崎県五島市幸町８-12
発行人　永冶克行
TEL 0959-72-8585　FAX 0959-72-8898
e メール　gotoshinpo@lagoon.ocn.ne.jp

毎月第２、第４土曜日発行
購読料　１部300円　半年(12回) 3,500円　１年(24回) 6,600円
郵便振替　株式会社 五島新報新聞社　01730-９-79880

秋　塩アゴ干しはじまる

第１回五島市マグロ養殖基地化推進会議開催

マグロ養殖機運広がる　稚魚採捕も順調に進む

クロマグロ養殖について、五島市では、すでに大洋、金子産業の進出もあり、問合せも多い。五島市内3漁協がこのほど市の呼びかけで一堂に会し今後の推進について協議した。

全国のマグロ流通の4割を抑える東洋冷蔵が対馬に100%出資の子会社の㈱みつしま水産を設立し、県の免許を取得してスタート。同じく1割の双日が松浦市に9月中にも参入の予定。上五島若松地区でも地場の養殖業者が参入している。

長崎県は、今年3月に長崎県マグロ養殖振興プランを全国に先駆けて発表。現在の500トンの生産量を2000トンに目標設定し、各種施策をうちだしている。

五島市では、中尾市長も昨年から、燃油高騰や資源保護問題によるマグロの不足を追い風として、昨年11月に、水産庁や関係機関が一堂に会する「五島まぐろセミナー」の開催誘致に成功し、マグロ基地化を選挙公約ともしていた。

9月19日、第1回の五島市マグロ養殖基地化推進会議が五島市の主催で開催された。集まった市内3漁協の組合長、参事などを前に、今年三月に県マグロ養殖振興プランを全国に先駆けて発表した県水産振興課梶脇利彦課長が説明（別掲）。同時に県外新規参入企業と漁協との協定書締結に際し、地域漁業振興や地元との共存・振興などに配慮することを柱にする県の考え方を提案。すでに㈱みつしま水産との協定でもこれにそって合意したことが報告された。

地元の状況について、平成8年から始まった奥浦地区での大洋エー＆エフ㈱の子会社である日本マグロ養殖五島事業所による事業の経過や稚魚捕獲の年次状況などのほか今年9月の金子産業の着手、現在区域拡大のための潮流調査もすすめていることなどが詳細に五島ふくえ漁協から報告された。

また、市水産課からは、事業者参入促進の為のGIS（地理情報システム）製作や、事業を検討している漁業者の先進地視察研修など今年度の市単独事業について説明。

会議では、養殖用種苗であるヨコワの確保の今後について県水産課や、五島栽培漁業センター服部圭太場長から見通しが出された。それによると、現状の曳き縄漁業者による稚魚捕獲の方法に加えて、現在国の実証事業として、樫の浦の海興水産により、まき網で漁獲された小型マグロの運搬技術を確立させることをすすめていること、そして人工孵化による種苗生産技術の進展もあり、3つの方法が補完しあう体制をめざしている、という。

漁協側からは、問題点として、乾漁期の安定収入として歓迎されているが、稚魚採捕の不安定性や技術継承への不安、自由漁業になっている天然種苗捕獲の今後の曳き縄漁の規制、新規参入への資金不足、出荷用製氷能力不足などが出され質疑がかわされた。一方、生餌になるサバの地元流通のための冷凍保管や販売など3漁協の中で、それぞれの特徴を活かしたマグロに関しての連携提案も出された。

最後に中尾市長が、海興水産のモデル事業の実施、自己完結せずにマグロについての漁協同士の連携の提案、参入希望者への積極的な融資方針など核心にふれた有意義な会議となった。これを更に積み上げて進めていきたいと締めくくった。

真珠の跡にマグロを（堂崎・金子産業）

今年三月に発表された長崎県マグロ養殖振興プランの主な内容

1、生産目標を現在の年間500トンからおおむね5年後に4倍増の2000トンとする。

2、雇用創出や観光交流等の地域振興を考慮して、新規漁場設定や区域拡大に積極的に対応する。

3、マグロ養殖協議会を設立して養殖用種苗の安定確保に努める。韓国等近隣国の漁船が捕獲する幼魚を養殖用種苗とすることを禁止。

4、生産状況のデータの提出を求め、資源管理と、マグロ養殖の共済（保険）対象化を働きかける。

そのほか、技術協力、販路対策、地域振興支援、また、マグロ養殖を行う個人または一定規模以下の法人に対して金融支援を優先することなど。

津和崎小と北魚目小統合へ

井上町長「守りと変革」

新上五島町議会

江上副町長、道津教育長も留任

町長２期目最初の議会

新上五島町議会は、9月16日、9月定例議会を開催、26日までの会期を決定。町長選挙と同時に行われた議員補欠選挙で、3名の新議員も誕生し26名が勢ぞろい。

再選された井上俊昭町長は「財政破綻の危機を乗り切り、疲弊した地域の雇用、産業再生の切実な町民の気持ちを2期目の最大の課題にしたい。国の集落支援制度の活用、役場組織の改革や400人体制へのスリム化など、守るべきものは守り、変えるべきものは変えるキープ＆チェンジの精神でやりたい」と就任の挨拶。

津田祐一議長の祝意の挨拶の後、町長の行政報告があった。県土地開発公社の解散により約770万円が返還された。親和銀行奈良尾、有川支店の窓口業務の閉鎖に対する町の要望に、当面ATMコーナーに有人対応等の回答を紹介。津和崎小と北魚目小の21年4月統合に住民が同意。五島灘酒造の蔵開きと地元特産品としての初出荷が10月1日に決定。来年は60㌔㍑程度（4号瓶で8万5千本）予定して原料芋の黄金千貫を耕作放棄地の再生などで五町歩準備し、10月から仕込みに入る事等の報告があった。

任期満了を迎える江上副町長、道津教育長、浜崎監査委員など引き続き選任が同意された。一般質問は、坪井泰助、大角洋一、中野千尋の3氏が登壇。**（主な質疑を2面に掲載）**

10月1日、芋焼酎「五島灘」新発売！

有川・五島灘酒造㈱

新発売の「五島灘」を手に持つ田本佳史専務

いよいよ五島で生まれた芋の本格焼酎「五島灘」が10月1日に発売となる。

地産地消商品として生き残れるかは、その味次第。平成19年2月に会社設立した父で前社長の田本修一氏の突然の病死のため、その遺志を継いだ御子息で、工場の責任者として五島灘酒造㈱の専務取締役田本佳史氏は、9月はじめの試飲で出荷を決意。「小さい蔵でもあり、量よりも年々味と酒質の向上をめざす」として最初の出荷に自信を持つ。

当初、製造量の半分の3000本（25度720㍉㍑）程度を発売する予定。長崎県酒販経由で県内酒店などでの販売を予定しているが、すでに、予約も1000本を超え、最初の商品を手に入れるのは苦労しそう。1本1490円。

なお、残りの焼酎は、来春まで寝かしてブレンドして使う。銘柄としては、他に「五つ星」「五島列島教会群教会の島（いのりのしま）」がある。今年は、免許の遅れなどもあり、5㌔㍑だったが、来年は、60～70㌔㍑の製造を予定。新上五島町有川郷1394の1、☎0959・42・0002。

焼酎工場起工式「来年夏には出荷予定」

㈱五島列島酒造

工場建設始まる（18日撮す）

地元産の麦と芋を使い、特産品としての焼酎製造を目指して、平成20年2月に設立された㈱五島列島酒造（安永嘉一郎社長）は、去る9月5日、三井楽町の遣唐使ふるさと館前の、巨大な船型バス停の横の工場建設予定地で、中尾市長などを迎えて起工式を行った。国と市から補助を受けて建設を行う工場は11月末に完成予定。

安永社長は、「五島産の麦で7～8割、芋で2～3割の焼酎を製造する予定。1月ごろには製造に入り、来年の夏には皆さんに飲んでもらえると思う」と抱負を語った。当面30～50㌔㍑程度の販売を目指しており、10月19日までネーミング公募中。☎84・3555

新おみやげコンテスト賞金50万円

体感型観光のプログラム策定

ブランド開発協議会20年度事業

五島ブランド確立推進協議会総会が、9月10日、市役所で開催された。観光協会、商工団体、農協・漁協、交通関係、NPO法人などで構成する同協議会は、平成17年度以降、大浜地区「海業」体験等PR、「冬の五島」イメージアップ、五島キャッチフレーズ及びロゴマーク周知、「五島ばらもん便」開発、新商品開発「五島地鶏さざなみ」、五島の特産品Web発信、ロングスティに係る実証実験など多彩な事業を実施してきたが、19年度は予算がなく、関係団体などに引き続きの実施を依頼したにとどまった。

20年度からは、県の補助を受けて、①ごとう体感型観光推進事業、②都市とながさきのしま交流促進事業、③ごとう新おみやげ発掘事業を3カ年計画で実施する。今年度の実施予定は、①は、五島の地域資源の掘り起こし、体感型観光のプログラム策定、コンシェルジュ（旅の案内人）の育成、②は、椿まつり情報発信として雑誌への広告掲載、③は、新商品コンテストの実施や宣伝・販路開拓の積極協力を行うとして10月から募集開始予定。マンネリ打破の新おみやげ発掘のために商品や試作品を市民公募するもので、賞品総額50万円となっている。

質疑では、同様の事業と重なっているものがある、3ヵ年の補助事業終了後も継続して欲しい、素材の掘り起こしは多すぎるので教会群に絞っては、新おみやげの募集は2ヶ月ではいいものができるのかなどの意見が出された。

島を詠む⑮

チャンココや戦（いくさ）に途絶えたることも

千草会会員　内海　渓子

八月十五日は終戦記念日でもあります。御盆祖霊のなぐさめに、島中郷単位で念仏踊りが繰り出されて参ります。その哀調には独特のものがあり、揚句には「不戦」の願いも言外にこめられ風土詠として、思いの深い一句ではないかと思われます。

（静寛　記）

えんばの眼

健康被害の届けがないということで、毒入りや、カビ入り食品の流通を検査する現場の役人は皆お咎めなしのようだ。危険だから検査するという自らの立場の存在理由がないことを証明することと同じだ▼事故米など輸入して返品もされずに食糧倉庫に在庫として存在し、その売買に役所が携わっているというのが理解できない▼年金問題然り。全てのことで、前提とすることが守られなくなっては何を信じればよいのか。全てが信じることからスタートしていた日本の神話が音を立てて崩れようとしている▼200円を越すガソリン代、原油価格の先物取引は7月頃の147ドルを天井に、2月中旬以来7ヶ月ぶりに11月渡し価格は90ドルを割ることもあったというではないか（120ドル台に戻る日もあるが）値下げは？▼五島のガソリンの価格の妥当性は誰が検査しているのか。競争原理を働かせない世界では、監視係が必要ということか。

原　浩司　島の今を撮る

祭りの港

（原氏は上五島在住の写真家）

五島新報　定期　購読者募集!
ふるさとだよりとして贈りませんか。全国発送。
お申し込みは
年 24 回 6,600円
半年12回 3,500円（送料込み）
電話で。0959-72-8585
FAX で。0959-72-8898
メールで。gotoshinpo@lagoon.ocn.ne.jp
郵便振替で。01730-9-79880㈱五島新報新聞社
支払いは郵便振替で

草木染・手織り工房
遊々舎
月桃染めシルクストール
http//yu~yu~sha.eco.to/
☎0959-72-4560

そば
花言葉　あなたを救う
冠婚葬祭のお花承ります
花キューピット加盟店・全国お届け
フラワーショップ　すざき
江川町本店　72-3282（FAX 兼）
自宅　73-5906